



【看多機つむぎ】便り

令和6年 4月



春になり、寒暖の差にあたふたし、“あっ”という間に葉桜の季節に移ろってしまいました。
敷地内の桜が散る中、利用者の方達と、車椅子で散策を楽しみました。
また、今年は、観音山までドライブをし、車窓から満開の桜も堪能しました!(^^)!

“きれいだったね”と好評でした🌸

看多機つむぎの利用者状況（4月現在）です。 登録者数20名(定数29)、
平均介護度：4.4（介護1：1名、介護2：2名、介護3：3名、介護4：3名、介護5：11名）
ストーマ、尿道留置カテーテル、胃瘻、褥瘡、喀痰吸引、高カロリー輸液、点滴等に対応
介護福祉士5名が「認定特定行為業務従事者認定証」取得、今年度2名が研修受講予定です。
*夜間も吸引が必要な方の対応が出来るよう体制を整えています。
*家族の方の面会、外出等には制限はありません。



昨年10月から2月までの間、登録者数24名、平均介護度4.4を維持していました。しかし、
介護度が高く低空飛行で踏ん張っていた方達でしたが、1月末から次々とお看取りとなりました。

①1/26:90代、要介護5、慢性心不全・大腿骨頸部骨折：泊り、通いサービスを利用しながら、
敷地内に住む娘さんの介護を受けていましたが、「最期の時は自宅で」と。いよいよとなり夕方、
自宅へ。翌朝、家族に見守られながら永眠される。

②2/3:90代、要介護5、慢性心不全。つむぎ利用開始から6日目。つむぎでの看取りとなる。

③2/7,2/8：両日1名の方が入院中に永眠された。

④2/9:100代、要介護5、老衰：泊りと訪問サービスを利用しながら、県外から娘が泊りがけで
介護に当たった。やはり「最期は自宅で」と。かかりつけ医との協働にて看取りとなる。

看多機は、“家に居たい”“住み慣れた地域で最期まで暮らしていきたい”との想いを支援していきます。泊り・通い・訪問介護・訪問看護の4つのサービスを利用者及び介護者の方達と相談をしながら、自宅で安全安楽に生活を送るためには、どこの部分に支援が必要か？どのような支援を希望しているか？どれだけのサービスを提供できるか！ 両者のすり合わせが重要なポイントです。

*サービス利用状況は、
利用者の状態により変動します。何時でもお問い合わせください。

癒されました(*^^*)



看護小規模多機能つむぎ

☎027-353-2700

担当：千明・峯岸